

## News Release ( No.05-12 )

平成 18 年 2 月 6 日

### 報道関係各位

くすりの適正使用協議会

### 「医薬品および医療に関する意識調査」概要の報告

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

くすりの適正使用協議会(会長 大橋 勇郎<sup>いさお</sup>)はこの度、全国の成人男女 2,000 名を対象に「一般市民の医薬品および医療に関する意識調査」を実施しました。同様の調査は 1999 年 11 月にも行なっております。今回の調査は、一般市民の意識がその後どのように変化しているか、また慢性疾患で通院中の患者さんとそれ以外の人とで意識の違いはあるのか、更には、今後のRAD-AR活動(\*下段に注釈)の方向を検討する基礎資料を得たい、などの目的で行なったものです。

調査結果から、処方薬に対する認知度や説明への理解度が高まってきていることが読みとれ、これは印刷物を用いての説明、また調剤薬局の役割などが関連していると考えられます。一方で、副作用関連の情報を一般市民が望んでいるにもかかわらず、医療現場では十分に説明されていない、また、一般市民は医師と薬剤師のそれぞれの役割に応じた情報提供を求めている、ことなども明らかになっています。

なお、慢性疾患の患者さんは、医薬品や医療に対する意識が概して高い傾向にある、また、「学童期の段階から薬教育は必要」と一般市民が認識している、などの結果は、今後大いに注目すべき事項と思われる。

#### 調査の概要

- ・ 調査期間： 2005 年 10 月 13 日(木)～18 日(火)
- ・ 調査方法： (株)日本能率協会総合研究所が保有する F A X 調査パネルから対象者を抽出条件に基づき選定、F A X による調査票の送付と回収を実施
- ・ 調査対象： 全国の 20-69 歳の成人男女 2,000 名  
(回収率 80.4% 1,607 名)
- ・ 企画分析機関： スナッジ・ラボ(株)

#### 調査概要報告書

- ・ 同封の添付資料でご報告いたします。

以 上

## \* くすりの適正使用協議会とは……

くすりの適正使用協議会は、1989年に創立され、医療用医薬品の評価研究からくすりの適正使用の推進を目的とし、医療用医薬品製薬企業27社と個人2名で組織する任意団体です。当協議会は医薬品のベネフィットとリスクを科学的に客観的に検証し、社会に適正な医薬品情報を提供し続けることが患者さんの真の利益につながるという認識のもとに、自主的にRAD-AR<sup>レ-ダー</sup>活動を推進しています。RAD-AR (Risk/Benefit Assessment of Drugs Analysis and Responseの略称)活動とは、医薬品が本質的に持っているリスク(好ましくない作用など)とベネフィット(効能・効果や経済的便益など)を科学的に検証して分析を行い、その成果をもとにして社会に正しい情報を提供し、医薬品の適正使用を推進すると共に、患者さんの利益に貢献する一連の活動を意味します。

### お問い合わせ先

#### くすりの適正使用協議会

広報グループ長	あさかわ たくお 浅川 琢夫
事務局長	まつだ いたろう 松田 偉太郎
事務局	しが のぶゆき 志賀 信之

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町4-2 第23中央ビル5階

TEL 03-3663-8891

FAX03-3663-8895

E-mail [info@rad-ar.or.jp](mailto:info@rad-ar.or.jp)